

Contents Vol.214

2017.10.20

02 NEWS

- 1 スポーツ庁大学推進事業に選定
- 2 伊調馨さん本学でシンポ
- 3 DASHシンポジウム
- 4 認定アスリート、山本・金持選手活躍
- 5 栄養セミナー
- 6 体操女子宮川選手、DASH認定アスリートに

05 ヒックス

- 1 就職状況
- 2 オープンキャンパス2017
- 3 キャリアフェスタ
- 4 大学進学説明会、懇話会初開催
- 5 教育後援会役員会
- 6 学友会役員決まる
- 7 摂泉会代議員会、懇親会
- 8 貝塚市と協定締結
- 9 臨海水泳実習復活
- 10 海洋スポーツキャンプ
- 11 サンライズキャンプ
- 12 ひらめき☆ときめきサイエンス
- 13 2017年度定期体力測定
- 14 平成29年度入学式
- 15 スクールサポーターに支援金
- 16 ライフセービング部、海上保安庁から表彰
- 17 ダンス部2大会で受賞

14 コラム 窓

15 我が青春の記 宮地弘太郎 田部絢子



大体大など8大学、スポーツ庁大学推進事業に選定

スポーツ庁は9月14日、スポーツを通じて大学の振興や活性化を行っている大阪体育大学など8大学を選定した。

同庁は5月30日から6月28日まで、大学スポーツ・アドミニストレーター（管理者）の配置などの大学におけるスポーツ活動を支援する「大学スポーツ振興の推進事業」について有識者からなる技術審査委員会で審査、本学など8大学が採択された。

本学は①スポーツ分野の統括業務の実施②大学スポーツ・アドミニストレータの配置③大学スポーツにおける先進的モデルの企画・立案及び実施④学産官連携協議会への協力を高評価された。

本学は2015年の開学50周年に「大体力、新しい時代を切り拓く」をテーマとして、「研究・教育・拠点づくり」の3つを「大体力ビジョン2024」に掲げた。研究・教育の精進とともに、「地域社会の活性化に貢献する拠点、及び世界で活躍するアスリートと指導者を育成・サポートする拠点づくり」を進めている。

中核事業として2016年度に立ち上げたのが「大体大DASHプロジェクト」。本学が誇るスポーツ医・科学の研究、知見を生かした学生アスリートのハイパフォーマンス支援に加えて、学習、キャ

リアなど総合的アスリート支援を活発に行い、地域交流、社会貢献事業の展開に全学挙げて取り組んでいる。

さらに同庁がアスレティックデパートメントを設置。大学横断的、競技横断的な、いわば日本版NCAA（全米大学体育協会）を創設。本学でも学内業務を横断統合し、「大体大DASHプロジェクト」と連動した2018年4月

開設をめどに「スポーツ局」創設の準備を進めている。

本学以外のスポーツ庁選定大学は次の通り。青山学院大▽鹿屋体育大▽順天堂大▽筑波大▽日本体育大▽立命館大▽早稲田大

女性アスリートの育成・支援プログラムにも採択

また同庁の委託事業「女性アスリートの育成・支援プログラム」に

選手へのサポート大切 伊調馨さん本学でシンポ



伊調さん（中央、左は土屋教授、右は片山さん）の話
を熱心に聞く学生たち

五輪4連覇、国民栄誉賞を受賞した女子レスリングの伊調馨さん（33）は総合警備保障Ⅱを迎えた「夢ヘダッシュ」少年少女アスリート

ト応援プログラム」が9月2、3日両日、本学L号館（開学50周年記念館）と第6体育館で行われた。2017年度スポーツ庁委託事業である「女性アスリートの育成・支援プロジェクト」の関連事業として大体大DASHプロジェクトが中心になって開催にこぎつけた。2日は岩上安孝学長の開会のあいさつの後、学長補佐の藤本淳也体育学部教授が、DASHプロジェクトについてプレゼンテーション。女性アスリートの育成・支援をテーマにした「ハイパフォーマンス領域における女性アスリート心理サポートの可能性」のシンポジウムで、伊調さんは、コーディネー

「女性アスリートに対する心理サポートプログラムの開発」が採択された。土屋裕陸体育学部教授を実施責任者として①女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究②女性アスリートの戦略的強化・支援プログラム③女性スポーツ医学普及啓発プログラムを柱に「大体大DASHプロジェクト」が中心になり、推進していく。実施期間は2018年3月31日まで。

ターの片上絵梨子さん（学長室女性アスリート育成支援プロジェクト）の質問に答え、スポーツ心理学が専門の学長補佐、土屋裕陸同教授がモデレーターとして、まとめながら進化した。

約350人と満員の聴衆を前に伊調さんは「サポートは以前より充実している。競技から少し離れた



伊調さん（左）の指導に耳を傾ける子どもたち

て勉強したり、サポートを受けたりすることで、『もっと活躍できる』といかに選手に伝えられるかも大切」。「応援してくれる人を喜ばせようと一生懸命取り組むあまり、精神的に疲弊する女子選手もいる。何気ないアドバイスが解決につながるケースも少なくない」などと話し、自身は「マットにいるのが生きがい、楽しみ」とも話した。

戦いを見て学ぶことも大切 レスリング教室

翌3日は、府内の小学生約260人をレスリング経験のないグループ、レスリングをしているグループに分け、昨年世界ジュニア44歳級で優勝した中村未優さん（専修大1年生）をパートナーに、それぞれの身の丈に合った基本動作、防衛での体の使い方や、イメージトレーニングの方法など分かりやすく指導。初めてレスリングを体験した仙田荘士、恭資兄弟（熊取西小4年、2年）は「楽しかった。サインまでもらえてうれしかった」とにこにこ。経験者のグループの沖田大聖君（高槻市立冠小6年）は「タックルのコツを教えてもらった。とても分かりやすかった」と話していた。

質問コーナーでは「なぜローマの世界選手権に出なかったのですか？」など鋭い質問もあり、伊調さんは「戦いを見て学ぶことも大切。今回は大会をじっくり見せてもらった」と苦笑いしながら答えていた。

大体大・日本スポーツ振興センター 包括連携協定記念シンポ

「大学が拓くハイパフォーマンスサポートとスポーツ振興」



基調講演として高橋道和スポーツ庁次長が登壇、スポーツ立国の実現のための基本計画などを紹介

オーマンズ事業の現状と今後のあり方」と題し、石毛勇介氏（国立スポーツ科学センター）、小笠原一生氏（大阪大学）、伊坂忠夫氏（立命館大学）、伊藤雅充氏（日本体育大学）、本学からは梅林薫体育学部教授が登壇。石毛氏は「昨年10月3日発表の『競技力強化のための今後の支援方針（通称、鈴木プラン）』ののっとり、取り組みを進めている」と発表。同庁予算でナショナルトレーニングセンターを拡充、2019年に開設すると話した。

「オーマンズ事業の現状と今後のあり方」と題し、石毛勇介氏（国立スポーツ科学センター）、小笠原一生氏（大阪大学）、伊坂忠夫氏（立命館大学）、伊藤雅充氏（日本体育大学）、本学からは梅林薫体育学部教授が登壇。石毛氏は「昨年10月3日発表の『競技力強化のための今後の支援方針（通称、鈴木プラン）』ののっとり、取り組みを進めている」と発表。同庁予算でナショナルトレーニングセンターを拡充、2019年に開設すると話した。

後半は「大学が取り組むスポーツ振興の展望」と題し、松永敬子氏（龍谷大学）、前田明氏（鹿屋体育大学）、本学の神崎浩体育学部教授、伊坂忠夫氏（立命館大学）が登壇。龍谷大学は、浄土真宗の建学精神にのっとり、教養と社会性を身につける重点強化クラブ対象の教育啓発プログラムについて紹介。鹿屋体育大学ではスポーツパフォー

各競技のサポート、研究環境の整備について説明。神崎教授は来春のスポーツ局設置構想、と本学の人材育成の展望について語った。最後に、伊坂氏はキャンパスを、スポーツ健康コミュニティの拠点として地域社会に提供し、理想的な社会環境づくりを展望した。本会では、終始、大学がスポーツの強化や普及、健康長寿社会にいかん貢献していくか、またそのための人材教育・輩出をしていくか活発に討議された。

【学長室 DASHプロジェクト
ディレクター・浦久保和哉】

本学主催のシンポジウム「大学が拓くハイパフォーマンスサポートとスポーツ振興」が5月21日、大阪市北区の帝国ホテル大阪で開かれた。高橋道和スポーツ庁次長の基調講演で始まった今回のシンポジウムは、五輪日本代表選手の7割以上が大学生、大学院生、大卒者であることや、昨年度から文部科学省が「大学スポーツの振興に関する検討会議」を開催し、大学の経営資源のスポーツ推進への活用方策を検討し始めたことを受けて、わが国の競技力向上や、地域活性化、長寿社会に果たす各大学の役割について討議した。

前半、「大学におけるハイパフォー

後半は「大学が取り組むスポーツ振興の展望」と題し、松永敬子氏（龍谷大学）、前田明氏（鹿屋体育大学）、本学の神崎浩体育学部教授、伊坂忠夫氏（立命館大学）が登壇。龍谷大学は、浄土真宗の建学精神にのっとり、教養と社会性を身につける重点強化クラブ対象の教育啓発プログラムについて紹介。鹿屋体育大学ではスポーツパフォー



パネルディスカッションIでは本学・土屋裕睦教授（左）がモデレーターとなり、各大学におけるハイパフォーマンス事業を紹介し、展望や課題などを討議

陸上・山本・水泳・金持世界で活躍

DASH認定アスリート

大体大DASHプロジェクト認定アスリートで陸上の山本篤本学客員准教授、水泳の金持義和選手（大学院生）が世界の舞台で活躍、それぞれが岩上安孝学長、野田賢治理事長らに試合結果を報告、謝辞を述べた。



山本選手表彰訪問（左は岩上学長）



金持選手表彰訪問（左は野田理事長）

山本選手は7月14日から23日までロンドンで開かれた世界パラ陸上競技選手権大会で、男子走り幅跳び（切断などI42）で銀メダル、百メートルで6位に入賞、27日に来学して岩上学長と懇談、大学のサポートにお礼を述べた。同選手は9月23、24日、福島市であった陸上のジャパンパラ大会に出場、百メートルを13秒55、四百メートルを1分7秒67で制し、最終日の24日は、男子走り幅跳びはで6メートルで優勝した。

同選手は年内の陸上競技大会をすべて終え、来年の平昌パラリンピック出場を目指してスノーボード活動に本格的に取り組む。

一方、金持選手は7月18日から30日まで、トルコのサムスンで行われた第23回夏季デフリンピック競技大会サムスン2017に出場、エントリートした競泳・背泳ぎ7種目すべてでメダルを獲得した。百メートル背泳ぎは57秒87、二百メートル背泳ぎは2分07秒77、四百メートルフリーリレー、四百メートルメドレーリレーで銀、五十メートル背泳ぎは27秒29、四百メートルフリーリレー、混合4×百メートルドレーリレーで銅メダルを獲得、背泳ぎの第一人者の貫録を示した。

同選手は9月6日来学、野田理事長、福田芳則副学長に7個のメダルを披露しながら、結果報告とお礼を述べた。

五輪出場の体操女子宮川選手、DASH認定アスリートに

本学を拠点に東京五輪での活躍目指す



本学DASHプロジェクトは10月1日、リオデジャネイロ五輪女子日本代表で、2日から8日までカナダ・モントリオールで開かれた世界体操選手権大会に出場した宮川紗江選手（18）にセインツ体操クラブとDASH認定アスリートとして専属契約を結んだ。

同選手は13年から女子ジュニア選手になり、そのころから本学園が運営するトップスポーツクラブの小林隆コーチの目に留まり、同コーチがリオ五輪に向けて特別指導を行った。翌14年、ウズベキスタンで開催されたアジアジュニア体操競技選手権大会では、日本女子の弱点とされてきた「ゆか」と「跳馬」で優勝、その後も好成績をおさめ、リオでは48年ぶりになる団体総合4位入賞に大きく貢献した。

同選手はこれからDASH認定アスリートとして、ナショナルトレーニングセンターでの活動に加え、世界基準の技術練習にも対応出来る本学のトレーニング施設や、研究設備などを活用しつつ、本学のDASHプロジェクトが提供するハイパフォーマンスサポート、小林コーチをはじめ、優れた指導者のコーチングを受けながら、2020東京五輪でメダル獲得に向けて、本学で強化練習に取り組む。

同選手は7月、本学体操競技専用練習場で本学体操部に技術指導や、トレーニングルームで筋力トレーニングを行っており、勝利者知ったる練習場だ。小林コーチは「宮川選手の練習を見ることで、本学のアスリートにも良い影響になる」と、相乗効果に期待している。

栄養セミナー定期的に



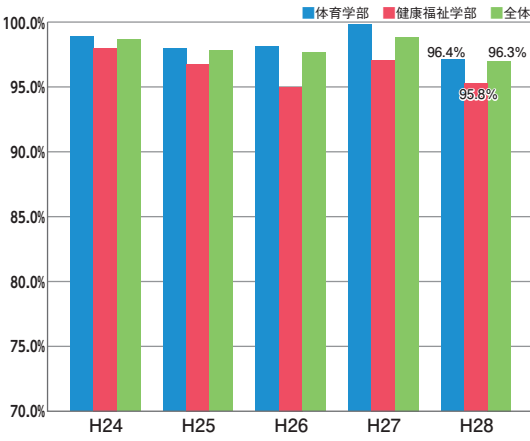
食事は食べればすぐに目に見える効果が出るわけではない。しかし、日々の食事が必要エネルギーと栄養素を満たすことは、毎日の練習を行うパワーを生むためには大切だ。スポーツ栄養に関するIOC（国際オリンピック委員会）の合意声明2010でも「食事は競技成績に大きく影響する」と述べられており、食事の重

要性が示されている。「アスリートの食事」は「特別な食事」というわけではなく、近隣のスーパーや、コンビニエンスストアに売られている食べ物で十分に適切な食事は用意できる。冊子「大体大アスリート食」を定期的に読んでもらうと食事に関する知識が次第に身に付けることができる。それを基にアスリートの食事を習慣化したり、「意外に悪くない朝食」を取り入れたりすることで、自分自身が出ることから質の高い練習を支える身体を作っていきたい。

DASHでは、栄養セミナーを月1回、昼休みに定期開催しているので、栄養、食事知識のレベルアップと実践に役立ててほしい。

【DASH栄養担当 奥村友香】

●大阪体育大学 就職率 (H24年度～H28年度)



他大学から注目されるキャリア支援プログラムはより一層の充実が図られた。▽2、3年生を対象とした『キャリアデザインI・II』（授業）▽1～3年生を対象とした短期

（前年比2・5ポイント減）と微減、文部科学省及び厚生労働省が発表した今春卒業の大学生就職率は97・6%（4月1日現在）だった。

体育、健康福祉両学部の就職率は96・3%

公務員は過去最多の94人 就職状況まとめ

キャリア支援センターが、平成28年度卒業生（9月卒業含む）の進路状況（5月1日現在）をまとめた。教員の合格者は22人、公務員は94人（いずれも延べ）となり、公務員の合格者は過去最多になった。企業では、スポーツ関連のみならず、野村證券や富士通、日本郵便、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、また地方銀行などさまざまな分野への進路が見られた。

集中講座『キャリアフェスタ』▽2年生対象の『グループ面談』と、3年生対象の『個別面談』▽『学内セミナー』（企業説明会）▽学習支援室と連携した『公務員試験対策講座』▽キャリア支援部が行う『企業支援対策講座』▽夏休みに就職支援センターが行う『教員採用試験2次試験対策』など、教員、公務員、企業を目指すライオンナツプが揃う。スタッフ一同、今年度も学生たち



今年度の高校生、保護者対象のオープンキャンパスが好評のうち終わった。7月2日は保護者のみを対象にしたオープンキャンパス。ベネッセグループ(株)進研アドによる大学を取り巻く環境変化や学費、キャリア支援など保護者として知ってもらいたい内容を説明いただき、その後は入試説明、キャンパスツアーや学食体

オープンキャンパス2017、多数の参加者

今年度の高校生、保護者対象のオープンキャンパスが好評のうち終わった。7月2日は保護者のみを対象にしたオープンキャンパス。ベネッセグループ(株)進研アドによる大学を取り巻く環境変化や学費、キャリア支援など保護者として知ってもらいたい内容を説明いただき、その後は入試説明、キャンパスツアーや学食体

の就職活動の成果に大きな期待を寄せている。

今回の進路状況調査の結果は、例年に続き教員、公務員、企業と安定した高い水準の成果を見せ、また近年の企業の売り手市場もあり、企業への就職が際立った結果となった。本学の学生が各業界で評価を得ている背景には、高い専門領域の先生方の教育や、学外での実習活動、また厳しいクラブ活動で培った「大体力」が、さまざまなフィールドで評価を受けている結果だと見ている。「大阪体育大学は優れた教員を輩出する大学である」と世間からも評価されていることに加え、企業からも大体大生への就職活動の成果に大きな期待を寄せている。

また「学部・学科説明」「入試説明」「キャリア説明」はL号館で行い、2階、3階の教室が満席になる回もあった。各コースの学びを紹介する「学び紹介コーナー」や「キャンパスツアー」では本学の学生が高校生と直接触れ合い、施設の紹介やコースの詳細な内容を説明していた。

体育大学らしいプログラムとして今年度は「トレーニング体験」を実施し、実際に最新のトレーニングマシンを使用し、こちらもたくさん参加者があった。

高校生、同伴者を含めて延べ2816人と多数の参加者があった今年度のオープンキャンパス。12月10日には「入試対策講座」も予定している。体育系予備校の講師による大阪体育大学の一般入試の傾向と対策を解説していただくことになっている。

【入試部】
詳細は入試情報サイトで。

「知らない世界を」知ろう！、 3年生キャリアフェスタ

教育学部初参加

教育学部の3年生が初めて参加したキャリアフェスタ「知らない世界」を知ろう！「生の声を聞いて、実際の「社会」を感じよう」が、9月19、20両日、本学で行われ、教育学部の3年生とともに、企業や団体、業界などのブース（教室）を回り、担当者の話しを熱心に聞いていた。

学生たちは自分にとって関心が高い企業や団体などを選び、先着順で1ブース約40人が1日4ブース、2日間で8ブースを回り、各企業などから派遣された担当者の話しにメモを取ったり、うなずいたりしながら、35分間話しを聞き、個人的に質問もしていた。

担当者は本学のOB・OGが多く、吉本興業では昨年卒業の中村直樹さんがアシスタントとして「お笑い」だけではなく、多角経営をしている同興業の魅力を語った。大学時代4年間、サッカー部にいた中村さんは「漠然とした気持ちで入社したが、いざ入ってみるととても面白い会社。狭き門だけど、後に続く後輩たちにも頑張ってもらいたい」と話した。

リゾートトラストでは担当者に、昨年卒業の隼田奈海さん、内定者の高橋美咲さん、十川雅子さんが同行、傘下に医師、弁護士、会社経営者などハイクラスの人たちが会員のクラブが盛況、やりがいがあるなどと生

き生きと語り、隼田さんが「初任給は手取りで37万円、家賃手当が6万円」と言うと、学生から「いいな」「フー」という驚きと羨望が入り混じったため息がもれた。

また二つの教員ブースでは、いずれも平成27年卒業の8教員が、受験対策、現在の仕事ぶりなどを飾りなく説明、後輩にエールを送った。茨木市立養精中学の古川成児さんは「今出来ることを全力で」、大阪府立羽曳野支援学校の河村知世さんは「小中学生合わせてわずか7人だが、人数が少ないと難しいところがある。反面やりがいがある」と述べた。

受講した教育学部の江間翔大さん、教育学部の林山真子さんに感想文を寄稿してもらった。

【参加企業、団体、業界】国分西日本株式会社、株式会社USEN、興和株式会社、リゾートトラスト株式会社、株式会社日本旅行、青年海外協力隊（JICA）、進学（大学院）、株式会社三井住友銀行、京セラ株式会社、吉本興業株式会社、海上保安庁、教員、株式会社メタルワン、岩谷産業株式会社、和泉学園（法務教官）、大成建設株式会社、日本通運株式会社、東京消防庁（消防官）、海外留学、三菱商事株式会社、株式会社ぐるなび、ネスレ日本株式会社、皇宮警察（順不同）



キャリアフェスタ、古川教諭の話しに関心を高める3年生

今からの取り組み

林山真子（教育学部健康スポーツマネジメント学科）



キャリアフェスタで印象に残ったのは、1日目のリゾートトラスト株式会社のブースだ。この会社も説明

してくれた担当員さんのお話がうまくて、聞き入ってしまった。

リゾートトラストでは、卒業生のリアルな話に驚くことばかりだったが、ホテル業に大いに興味を持った。営業部署では契約をとる仕事なので大変そうだが、その分契約をとれた時のうれしさや、顧客との長い付き合いができるといった面で、やりがいを感じられそう。しっかりと自分の時間（趣味の時間）を確保できるということも魅力的だった。

私はアルバイトで接客業をしており、お客様第一の視点で働いているので、経験を生かすことができるような、ホテルの従業員として働くことも楽しそうだなと感じた。この会社のインターンに一度参加してみようと思う。

私は今まで教員一本で考えており、企業説明会や、インターンなどには参加していなかった。しかし、キャリアフェスタでは、自分の思い描いていたような業界のイメージとは異なり、自分の知らない業界事情を具体的に学べるきっかけになった。就活が始まるまでの期間で、自分に合った職業に出会えるように、今からいろいろなことに取り組んでいこうと思う。

将来に向けて有意義な時間

江間翔大（教育学部教育学科保健体育教育コース）



「知らない世界を知る」というテーマのもとキャリアフェスタに参加し、現在目指している

教員、選肢肢として持っている大学院、一覧表を見て興味を持った青年海外協力隊（JICA）と東京消防庁のブースを回った。

教員ブースでは採用試験に現役合格された先輩の方々の現在の生活や、教員として大切にしていること、試験に向けての勉強法などを聞くことができ、今すぐに、また教員になったときに参考になる内容だった。校種も小学校から高校、特別支援学校まで幅広く、校種選択の参考になった。

大学院では、大学との違いや生活、学費について知った。また、学会への参加などで人脈が広がっていくことや、やりたいことをとことん追求できるという点に魅力を感じた。

東京消防庁では、自分の持っていた消防車に乗って消火活動をするという消防へのイメージをはるかに超える組織の大きさや、日頃の地域の方への防災指導、消防車の技術改良も重要な業務だということが分かり、消防という仕事がとても魅力的な職業だと感じた。

限られた時間で限られた数しかブースを回ることができなかったが、自分自身の将来に向けて有意義な時間を過ごすことができた。

大学進学説明会、懇話会初開催

大阪府内の高校教員（校長、進路担当者など）を招いた初めての大学進学説明会及び懇話会が、6月28日、大阪市北区の大阪体育大学同窓会会館アネックスで開かれた。冒頭、野田賢治理事長が「大学開学50年がたち、更に10年20年と発展し進んでいくように、皆様から忌憚のないご意見をいただきたい」とあいさつ。

第一部では福田芳則副学長が大学の概要について、淵本隆文体育学部長、工藤文三教育学部長が、それぞれの学部について詳細に説明、南直樹入試部次長が具体的な入試方式などを話した。このセッションの最後に、川端龍志さん（体育学部4年）が、大学受験に向けた対策、教員採用にどのよ

うに対応したかなどを話し、出席者から大きな拍手を受けた。

第二部では「スポーツを通じた人材育成と高大連携」をテーマに、それぞれの高校の取り組み方、本学に対して入試に関する事、就職に関する事など、高校現場で保護者から寄せられる質問などが出された。特に就職に関する事では、教員以外の公務員、企業、事業などについて、高校生が知りたいことや保護者が知りたいことなど、意見やアプローチの広げ方などが提示された。

長崎正巳大学事務局長が「これまでこのような機会がなかったので、高校現場の声をいただき、感謝します。本学の強み、弱点も知りました。今後役立てていきたい」と締めくくった。

【出席高校は次の通り】桜宮、大塚、堺西、久米田、摂津、河南、阿倍野、汎愛、羽衣学園、上宮太子、和泉、常翔学園、大阪学芸中等教育学校（順不同）

学友会役員決まる

学友会は5月30日総会を開き、新役員を決めた。役員は次の通り。

会長 海野真琴（体育学部3年、アルティメット部）▽副会長 原由奈（同、無所属）、三尾祐希奈（同2年、学生トレーナーチーム）▽総務委員 横山峻平（同、アルティメット部）▽企画広報委員 別所裕奈（同3年、ソフトテニス部）、西 葉実恵（教育学部2年、無所属）▽会計 家村聖菜（体育3年、無所属）、礼場栞菜（同2年、女子フィールドホッケー部）

▽雨山祭実行委員長 笠原知希（体育2年、軟式野球部女子コーチ）▽同副委員長 杉村瑠華（同、無所属）

教育後援会役員会開く

新役員など決まる

平成29年度の大阪体育大学教育後援会役員会は7月6日、本学中央棟大会議室で開かれ、平成28年度の事業、決算報告、平成29年度の予算、新役員などが決まった。

冒頭、福西由樹子会長から「6月に新教育棟が開学50周年記念館として完成し、竣工式が行われた。教育後援会としても積立金を有効に活用させていただいた」とあいさつ。野田賢治理事長が「4年後に浪商学

況、指導者たちの活躍などを述べた。

事業報告、決算報告が承認された後、役員選出に入り、岡本栄子副会長が新会長に選ばれるなど、別項のように決まり、岡本新会長が抱負を述べた。

新役員は次の通り。会長 岡本栄子▽副会長 棚村千鶴、辻本智子▽会計監査 渡邊樹世子、中井剛弘

救命緊急講習会も

また今年には藤井均体育学部教授を講師に、AED（自動体外式除細動器）を使った救命緊急講習会が行われ、後援会の人たちは学生スタッフのアドバイスを受けながら、懸命に取り組んでいた。



初めて開かれた進学説明会



真剣に話し合う役員、大学教職員

摂泉会代議員会、懇親会 女子ハンド、吉岡さんに激励金

大阪体育大学同窓会、摂泉会（長家秀博会長）第35回代議員会が7月1日、大阪市天満の同窓会館アネックスで開かれ、平成28年度事業報告・決算報告、平成29年度事業計画・予算計画の審議後、原案通りに承

認された。代議員会終了後、帝国ホテル大阪で行われた懇親会には、来賓として学校法人浪商学園から野田賢治理事長、大学から岩上安孝学長、永吉宏英、増原光彦両名誉教授ら



懐かしい人々と記念写真に収まる代議員たち

が出席、野田理事長は創立100周年を迎える浪商学園へのバックアップの要請、岩上学長は大学の現況を話した。

トップレベルで競技し、好成績を残した現役学生選手たち（別項）への激励金授与では長家会長から東アジアU-22で、3位になったハンドボール女子の吉岡紗耶さん（体育学部2年）に激励金が授与され、吉岡さんは「精進して世界でもっと良い成績を残せるよう頑張ります」と謝辞を述べた。ハンドボール女子から9人、アルティメット男子で宮崎勝さん（2017年卒）が選ばれたが、合宿などの都合で、吉岡さんだけの出席になった。懇親会は久々に会った

同窓生たちの輪があちこちに出来、話が弾んでいた。

◇激励金を授与された選手は次の通り◇

宮崎勝常（アルティメット部）、榎和奏、吉岡沙耶、秋山なつみ、佐々木春乃、松本ひかる、北原祐美、佐原奈生子、徳永千紘、馬場敦子（以上ハンドボール部女子）

大体大と貝塚市が協定締結

大阪体育大学と貝塚市は6月1日、貝塚市役所で連携協力に関する協定の締結式を行った。本学からは野田賢治理事長、岩上安孝学長、松本昌善学長室長、貝塚市からは、藤原龍男市長、砂川豊和、波多野真樹両副市長、西敏明教育長が出席、体育・スポーツを通じた地域住民の健康づくりや、地域社会の活性化に向けて、お互いの連携強化を図るための協定となった。



協定書を手にする岩上学長（右）と藤原市長

本学と連携協定を結んだ府、市、教育委員会は10になった。Ⅱ一覽参照Ⅱ

大阪体育大学と府市町との連携協定一覧

名 称	提携年月日
1 熊取町	平成17年3月29日
2 大阪府教育委員会	平成20年8月22日
3 大阪市教育委員会	平成21年7月14日
4 茨木市教育委員会	平成25年2月19日
5 高槻市教育委員会	平成25年3月18日
6 泉大津市教育委員会	平成25年6月5日
7 田尻町教育委員会	平成25年12月12日
8 高石市教育委員会	平成26年3月26日
9 阪南市教育委員会	平成26年4月21日
10 貝塚市	平成29年6月1日



奨励金を受けた吉岡さん（右）と長家会長

臨海水泳実習復活、 全員PADI取得

7月3日から7日まで、和歌山県白浜町の白良浜海水浴場で、「臨海実習」を開講した。本実習は、野外活動実習の選択必修化に伴って、今年度から3年次配当科目とし

て始まった実習である。

開学当初から平成18年まで、遠泳を中心とした「臨海水泳実習」が行われていた。本実習はこの伝統を受け継ぎつつも、新たにスキューバダイビングとライフセービングを取り入れて、海中の自然や環境を理解し、水の安全や自己保全を学ぶ実習として企画、運営した。

第1日目の午後から浜での開講式の後、班別に分かれて水慣れ、初歩の泳ぎから始まり、隊列を組んでの持久泳を行った。第2日目から第4日目は2グループに分かれ、スキューバダイビングとライフセービングをそれぞれ1・5日間ずつ実施。2日目の夕方、台風が直撃されたが、幸いにも進行が早く、午前のプログラムを延長して行い、午後は宿舎で講義をして、予定通りに授業を進められた。そして全員がPADI（スクーバダイバー）とウォーターセイフティの資格を取得することができた。

最終日は、大体大11年ぶりの遠泳である。始まるまでは緊張したり、不安な顔をしている者も見られたが、声を掛け合ったり、励まし合って全員が40分間の遠泳を完泳。閉講式では、一緒に泳がれた岩上學長から学生に賛辞を送られた。

最後に、ご協力いただきました白浜町観光課、旅館むさし、ダイビングスクールミス・オーシャン、講師の先生方、教職員の皆様に厚く御礼申し上げます。

【実習主任、体育学部准教授、川島康弘】



ヒューマン・チェーンで救助！



いざ、11年ぶりの遠泳の再開へ！！

海洋スポーツキャンプに121人

平成29年度の海洋スポーツキャンプ実習が9月11日から15日までの5日間、総勢121人の学生が参加して、徳島県のYMC A阿南国際海洋センターで行われた。実習生は6班に分かれ、カヌー、カヤック、ボードセーリング、スタンドアップパドル、カッター、ウォークラリー、一人乗りヨット、二人乗りヨット、無人島での活動などのプログラムを体験した。本実習では実習生が主体となって活動するよう班長・副班長が中心となり、試行錯誤しながらも班のさまざまな活動に取り組む姿が多くみられた。

4日目夜のプログラム、キャンプファイヤーでは、各班が完成度の高いスタンツ（寸劇）を披露し、通常の授業期間中には見ることのできない学生たちの新たな一面を垣間見ることができた。最終日には、海洋スポーツ競技大会が開催され、各班の実習期間中の成果を出し合った。

実習生たちは、海という大自然の素晴らしさを満喫している様子だった。海洋スポーツキャンプ実習でのさまざまな気づきを大学に持ち帰り、より充実した学生生活にして欲しい。

【実習副主任、体育学部准教授、中山健】



カッターで息を合わせる学生たち



ボードセーリングでガッツポーズ

5年11回目のサンライズキャンプ

学生たちは何を感じたか

東日本大震災復興支援活動として震災の翌2012年に立ち上げたサンライズキャンプも今回で通算11回目になる。今年は8月30日から9月2日まで、引率教職員5人、学生12人が、福島県南相馬市で支援活動にあたった。

一行は地元住民の体力測定・認知機能チェック、健康増進プログラムを紹介▽レクリエーションプログラム支援▽スポーツ少年団への運動指導、JR小高駅周辺などの環境整備に汗を流す一方、被災地を見学、被災者たちの話を聞き、交流を深めた。

今回参加した学生の東條力也さん（体育学部4年）、家村聖菜さん（同3年）に体験記を寄稿していただいた。

空き箱の復興

体育学部4年、東條力也



東日本を襲った大地震から6年。現在の福島は草原が広がり、新居住宅が立ち並ぶ。訪れた人の多くはどのかな田舎町といった印象を受ける

だろう。私もその一人である。しかし、被災者の方々とお会いし、お話を聞かせていただく中で、その印象はたやすく砕けた。



小高駅前を清掃する大体大生たち

被災後、多くの人が住んでいた仮設住宅のほとんどは、本来の土地利用に戻すため今年4月で閉鎖され、閉鎖後の住居が決まっていない方々は、まだ残っている仮設住宅への移動をしている。しかし、そのも来年には閉鎖されてしまうという。私は、なぜたくさんある新居住宅に移住してしまわないのか？と疑問に感じた。

お聞きしたところ、新居住宅に住んでも人が少ないため、スーパーや薬局など生活に必要な施設が近くになく、車での長距離移動を余儀なくされる。移住している人が少ないため、孤立することになるなど、さまざまな問題を教えてくださった。豊かだと感じていた草原も、津波による海水を浴びて作物を育てることが困難な田畑や、家が立ち並び賑わった土地だったそうだ。見えない『空き箱の復興』。それが今回参加し

ての感想だ。住みよい環境の再建を願う、これからも福島を訪ねたいと思う。

東日本大震災

「いま」を発信したい

体育学部3年 家村聖菜



サンライズキャンプに参加し、6年前ニュースを見て衝撃を受けたことを思い出した。震災があつてから6年たった今

では、テレビなどでは震災のことや東北のことはあまり報道されなくなった。なんの不便もなく、今の生活が当たり前のことだと思ってしまうと、記憶から薄れてしまっていることもあるだろうが、今でも想像もできない現状が広がっていた。

黒色のビニールで覆われた、放射能を浴びた処理しきれないほどの、がれきの山が広がっていた。また、雑草が茂ってしまつた、とてつもなく広く広がった土地を指さし、「ここ一帯はもともと全部民家があった」ということを聞かされた時、私は地震や津波の恐ろしさを目の当たりし衝撃を受けた。徐々に復興されていく中で、がれきがまだ残っていたり、骨組みだけが残された家を見ると、復興されたのはわずかに過

ぎないということを知らされたとともに、あの時の震災の恐ろしさを知った。

小学生の名前が彫られた石碑や、亡くなられた方の名前が彫られたものを見ると、胸が締めつけられる思いだった。実際被災された方は、どれだけの恐怖と不安があつたのかは、私には想像もできないことだ。だけど、今私にできることは何かを考え、このサンライズキャンプに参加した。これといって大きな力をもたらすことはできなかったかもしれないが、サロンの活動や、レクリエーションを通して、お年寄りの方々、小学生が楽しんでくる姿を見て、来てよかったと思う。文字では伝えきれない今回体験したことを、私たちが発信源となり、周りに広めていく必要があると痛感した。



集会場でお年寄りたちと交流を深める大体大生たち



被災者の名前が刻まれた墓碑

ひらめき☆ときめきサイエンス、 走りを科学する

参加者興味津々 石川研究室

日本学術振興会が後援するプログラム「ひらめき☆ときめきサイエンス」の一環で、8月5日に「走りを科学する。自分の筋骨格の特徴を調べ、短・長距離走能力アップ！」が、本学バイオメカニクス研究室に、高校生20余人が参加して行われた。体育学部の石川昌紀教授が指導に当たり、スポーツ科学講義と実習が2コマずつ組まれ、参加者は世界、日本のトップアスリートが取り組んでいるトレーニングを体験した。

参加者は石川教授の講義に真剣に耳を傾け、実習では世界に一つしかない測定機器で走りやチェックしたり、超音波装置を使って筋肉や腱を測定したりした。速く、効率よく走るために、自らの筋肉や運動能力

の特徴を分析、身体特徴を生かした走り方を考え、走りの情報をリアルタイムにフィードバックし、試行錯誤しながら、目的とした走りの獲得を目指した。

参加者は、自分の筋力や走法などを客観的に見ることが出来、「とても面白かった」「科学に興味を持てた」などと話していた。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」大学や研究機関で「科研費」(KAKENHI)により行われている最先端の研究成果に、小学5・6年生、中学生、高校生が直に見る、聞く、触れることで、科学の面白さを感じてもらおうプログラム。



石川教授の話聞く参加者



世界でひとつの測定。体験する参加者

平成29年度 定期体力測定 結果について スポーツ科学センター

表1 平成28年度の大阪体育大学定期体力測定の学部別参加者数

学年	男子学生			女子学生		
	体育学部	健康福祉学部	教育学部	体育学部	健康福祉学部	教育学部
1年	379名 99.0%	-	90名 100%	140名 99.3%	-	47名 100%
2年	351名 98.6%	-	78名 97.5%	155名 98.7%	-	47名 97.9%
3年	346名 98.3%	88名 92.6%	-	148名 100%	37名 88.1%	-
4年	348名 ※:87.2%	66名 67.3%	-	132名 ※:92.3%	29名 80.6%	-
全体	1424名 95.6%	154名 79.8%	168名 98.8%	575名 97.6%	66名 84.6%	94名 98.9%

※:4年(男子)は留年生39名のうち6名のみ参加。留年生を除いた4年生(男子)の参加率は95.0%
※:4年(女子)は留年生6名のうち4名のみ参加。留年生を除いた4年生(女子)の参加率は93.4%

表2 平成29年度の大阪体育大学定期体力測定の学部別参加者数

学年	男子学生			女子学生		
	体育学部	健康福祉学部	教育学部	体育学部	健康福祉学部	教育学部
1年	400名 100.0%	-	116名 100%	171名 100%	-	51名 100%
2年	377名 98.4%	-	88名 97.8%	138名 100.0%	-	45名 95.7%
3年	341名 97.2%	-	75名 94.9%	156名 100%	-	45名 100%
4年	327名 ※:86.5%	81名 85.3%	-	141名 ※:93.4%	35名 83.3%	-
全体	1445名 95.6%	81名 85.3%	279名 97.9%	606名 98.4%	35名 83.3%	141名 98.60%

※:4年(男子)は留年生34名のうち7名のみ参加。留年生を除いた4年生(男子)の参加率は96.1%
※:4年(女子)は留年生2名のうち参加者なし。留年生を除いた4年生(女子)の参加率は94.6%

表3 平成29年度の大阪体育大学定期体力測定の結果

測定項目		1年生	2年生	3年生	4年生
3分間SST (m)	男子	508.6±27.82	470.4±44.97	488.5±39.11	480.2±47.40
	女子	460.2±26.48	442.4±36.98	459.7±23.87	464.1±26.10
反復横跳び (回)	男子	60.4±5.78	59.4±6.84	57.5±7.34	56.7±7.47
	女子	54.2±4.53	53.8±5.45	51.0±6.33	52.9±6.02
上体起こし (回)	男子	37.3±5.38	37.3±6.38	37.4±6.86	34.9±6.62
	女子	32.3±5.06	32.5±4.84	32.1±5.66	30.2±6.15
握力 右 (kg)	男子	50.2±7.70	51.9±7.53	51.0±8.18	52.1±7.82
	女子	33.3±5.17	34.7±6.23	33.5±6.39	33.2±5.21
握力 左 (kg)	男子	48.4±9.55	49.4±7.45	48.3±7.59	49.3±7.31
	女子	31.1±4.95	32.8±5.45	31.0±6.17	31.5±5.16
背筋力 (kg)	男子	127.2±22.18	141.7±24.07	137.5±22.70	144.6±23.12
	女子	79.3±15.31	87.1±17.06	86.7±19.00	87.9±16.96
長座体前屈 (cm)	男子	52.0±8.38	50.7±9.05	51.1±8.73	48.8±9.38
	女子	50.8±7.00	49.8±7.89	51.0±8.13	49.7±7.75
垂直跳び (cm)	男子	63.8±7.69	63.8±7.89	63.5±8.12	62.0±8.07
	女子	46.7±5.65	46.9±6.88	46.5±7.25	45.3±5.99

数値は平均値および標準偏差を示す

参加率95%超、 2017年度定期体力測定

今年度の定期体力測定は、4月6、7日、両日に行い、同22日と5月8日から10日に、再測定を実施した。測定者数及び各測定の平均値などは別添の表の通りだった。

多くの先生方に測定部署にお出向いただいた、また教務補佐、大学院生に測定リーダーを、例年通りATコースの学生を中心としたスタッフで測定にあたっていただいた。体育学部と教育学部の参加率は、共に95%を上回り、中でも女子学生は両学部共に98%を超え、学生たちの参加への意識は定着していることが伺えた。年々参加者数の増加がみられることが望ましいが、各測定の混雑が目立つようになってきた。なかでも1年生の20分シャトルランでは長い列ができるなど、実施上の問題が見え、来年への課題となった。

これまででは、記録を各々が把握し利用してきたが、個人はもとよりクラブの体力向上プログラムへの活用や、研究データとして生かすことができれば競技力向上へとつながり、より積極的な参加が期待できるのではないかと考える。

また、この基礎的体力データと、種目の専門的測定データの双方からの取り組みも考えられるだろう。記録の利用方法について、その方策を次回に向け体力測定部会として検討していきたい。

年度の始まりの大変忙しい中、お手伝いいただきました皆様方にこの紙面を通して御礼申し上げます。

【体力測定部会、体育学部准教授、中井俊行】

平成29年度入学式

765人仲間入り

平成29年度大阪体育大学大学院、大阪体育大学の入学式が4月1日、スターゲイトホテル関西エアポート国際会議場で行われた。Ⅱ写真Ⅱ今年は大学院(博士前期課程、博士後期課程)24人、教育学部574人(編入生2人含む)、教育学部167人の合計765人の新入生全ての名前が岩上安孝学長から読み上げられ、入学が許可された。岩上学長は式辞で新入生に大体大の建学の精神と開学の歴史を伝えた後、学生生活を送る上で常に心掛けて欲しいポイント2



点として「学問に王道なしと健康的な生活習慣をみにつけること」をあげた。「学問をいかにせるようになるまでには、前向きな心構えに地道な努力を積み重ねていくことが欠かせない」と岩上学長は学問に王道なしの大切さを本学OBのMLB選手である上原浩治選手の「やらされるより、先ず自分でやってみることの大切さ」の例などをあげ、新入生に伝えた。式辞の最後には「私も教職員は、皆さんを支えてまいります。お一人お一人が大体大生としての誇りを胸に、悔いを残さない学生生活を送ってください」と支えになることを宣言し、新入生にエールを送った。

野田賢治理事長は「大体大生としての自覚を持って、日々研鑽を積んでいただきたい」と思います。そして、体育、スポーツのフロンティアを目指してほしいと思います」と新入生に熱いエールを送った。

来賓を代表して藤原敏司熊取町長から祝辞があり、たくさんの保護者が見守る新入生の宣誓では、大学院総代の藪中祐樹さん、教育学部総代の上原大和さん、教育学部総代の山間大雅さんの三人が宣誓をした。体育学部の上原さんは「新しい時代を切り拓き、社会に貢献できる人材になれるよう、実りある学生生活を送ります」と未来に向けた学生生活を送ることを誓った。最後は学歌の合唱が行われ、入学式は幕を閉じた。新入生は誓いを新たに学生生活のスタートを切った。

スクールサポーターに支援金、

8年連続8回目

国際ソロプチミスト大阪一りんくう

本学教職支援センター(北川憲一郎センター長)を中心に取り組んでいるスクールサポーター活動が、国際ソロプチミスト(大阪一りんくう)に認められ、7月14日、西さち子会長ら3人が本学を訪れ、西会長から岩上安孝学長に支援金が贈られた。本学の受賞は8年連続8回目。

西会長が「大阪体育大学のスクールサポーターチームが、日頃からサポーターしていただいている活動は、地域の活性化に大きく貢献しており、国際ソロプチミストでも高く評価しています。支援ができてうれしく思っています」とあいさつ。岩上学長は「本学のスクールサポーターチームが今年もご支援いただき感謝している。大学としては今後も社会貢献や、地域貢献に後押ししたいと思っている」と感謝の意を表した。

(シゲマソサエティ)学校と地域社会のために奉仕し、指導的役割を担いながら、諸活動に協力し、社会のために尽くす団体を指す。Sとはギリシア文字のSに当たるΣに由来し、ServiceのSを示す。



国際ソロプチミスト大阪一りんくう会員と岩上学長(左)ら

(スクールサポーター)ボランティアで学生を募り、近隣の小学校や中学校の教員の授業や、運動のサポートをする。学生たちにとっては、教員を目指すにあたって、実際に現場で学ぶ良い機会になっている。

見事な連携プレーで人命救助

ライフセービング部、海上保安庁から表彰

人命救助に当たったライフセービング部（嘉田純主将、部員41人）が、8月5日、第五管区海上保安庁関西空港海上保安航空基地から表彰された。

同部は7月は土曜、日曜、8月は1日から31日まで、淡輪海水浴場、湘南海水浴場など4か所で監視活動を行い、海難事故を未然に防ぐことに重点を置いている。8月5日は、淡輪海水浴場でリリー役の梅田玲央監視長（体育3年）ら8人の部員が2班に分かれて、監視台やパトロールをしていた。交代時間の午後1時半頃、男性（21）が溺れているのを発見。西田龍之介さん（体育3年）がレスキューボードで、男性を救助に向かった。助けられたときは意識があった男性は、海岸に近くと同時に意識を失った。

高添大督さん（同3年）、舟根芽香さん（同2年）が泉南地区消防の救急車が到着するまで男性を抱抱、救急車にバトンタッチした。男性はあわや一命を落とすところだったが、同部と泉南地区消防との連携プレーで一命を取りとめ、社会復帰できるまでになったという。

引き継ぎの時に橋谷俊平さん（同2年）が「泳ぎはあまり上手でなさそうなので、『気を付けてくださいよ』と声をかけておきました」と西田さんに報告、西田さんもこの男性を注意深く見守っていたそ



表彰された梅田さん、西田さん（一人おいて）高添さん、橋谷さん（左から）

うだ。

本格的に海のシーズンに入る前、嘉田主将と泉南地区消防が「万一の場合の場所がすぐにわかるように」と話し合い、早速連携プレーに生かされた。

広報担当の柳下卓弥さん（同3年）は「ライフセービングの最大の目標は、未然に事故を防ぐこと。今回はそれは出来なかったが、日頃のシミュレーショントレーニングが役立った」と話していた。

今夏は同部が活動をした4カ所のビーチで3年ぶりの死亡事故0を記録、それまで熱中症の対応などは何度かあるが、人命救助による受賞は初めてだという。

ダンス部2大会で受賞

さらなる頂点目指して

ダンス部はこの夏、2つの大会に出場し、2つの大会とも受賞することができた。一つ目は、8月7日から10日まで、神戸文化ホールで開催された第30回オールジャパングダンスフェスティバル（AJDF）で、作品「フェイクニュース」が特別賞を受賞した。

この大会は高校生のインターハイ、大学生のインカレに当たるビッグイベントで、学生が1年かけて練習を重ねてきた成果を競う舞台である。本学の作品「フェイクニュース」は、タイトルからも想像できるように、同時代を切り取った斬新なテーマを選び、ユーモアある表現で観客の笑いを誘った。

二つ目は富山県高岡市で開催されたアー

ティステイックムーブメント in トヤマに2チームをエントリーし、古藪直樹・島田莉子のデュオ「Exclamation point」が、審査員賞と座・高円寺ダンスアワードを受賞した。来年1月14日に行われる座・高円寺（東京）で再演が決まっている。

本学ダンス部はAJDFでは5年連続の受賞となり、受賞常連校として、名前が挙がるようになったことは、監督としてとても誇りに感じる。しかし、その頂点を制覇するには技術的には足りない部分がある。一つ一つの積み重ねを大事にし、部員とスタッフとともに、次の高みを目指し励んでいきたい。【ダンス部監督、体育学部准教授、白井麻子】



フェイクニュース出演者、コーチ指導者



! Exclamation pointの演者、島田莉子（体育学部3年）・古藪直樹（体育学部2年）

コラム

ボニジャー

教育学部教授 和田隆夫

あなたの将来はマシュマロにあり

午前の車内に輝度の強い光が射し込んでいます。たっ
たいま読了した文庫本をひざに置き、閉じたまぶたを指
で強く押さえました。

ウォルター・ミシェル『マシュマロ・テスト』です。

マシュマロ・テストは行動科学史上最も有名であり、
意地の悪い実験です。なんとまだ学校にも行っていない
子どもたちの自制心を試すものです。まず好きなお菓子
を一個机に置き、次に「今食べてもいいけれど、20分
食べるのを我慢すれば、2個食べられるよ」と指示して、
子どもを一人にするというものです。

これは大変なジレンマです。子どもは涙ぐましい努力を
します。みなさんはマシュマロをビールに置き換えるだ
けでその深刻さを理解できるでしょう。

最初の実験から50年たち、いろいろなことが分かっ
てきました。20分間我慢できた子は、その後も優れた
自制能力を発揮して、学業成績や社会的評価を高めるよ
うです。欲求不満やストレスの対応もうまく、なんと肥
満指数も低いそうです。素晴らしいですね。まあ、いろ
いろ意味で成功する人たちです。そこから成功のため
にはIQが高いだけではだめ、結局自制心を強くしなけれ
ばいけないことが、科学的に分かってきたということだ
す。

車両が揺れ、停車に気づきました。三歳くらいの男の
子と、若いお母さんが乗ってきました。男の子は小さな
リュックを背負っています。お母さんは座ろうとしまし
たが、男の子が前に歩きだしたので、しかたないといっ
た風情で、肩を少し落としてゆっくりついていきます。
彼は運転台の斜め後ろに立ち、フロントガラスの上から
下へ流れるレールを見ています。お母さんは後ろについ
て立ち、それに安心して子どもはよりかかっています。し
ばらくすると男の子は前を見つめたまま、リュックを後
ろに差し出し、それを黙って手に取った母親は、幼児を
抱き上げました。そのまま静かに母子は、五つ目の駅で

降りるまで、流れるレール
を見ていました。いつかあ
の子は、母親の疲れに気づ
き、前でレールを見るか、
お母さんと座るか、葛藤す
るようになるでしょう。

「人生はいつまでもマシュ
マロ・テストの繰り返しだ」。
カカオ70%のビターチ
ョコをぽいと口に放り込み
ました。



※筆者が滝瀬定文名誉教授から和田隆夫教授に代わりました。引き続きご
愛読ください。

大阪体育大学 平成28年度 資金収支計算書

(収入の部)

(単位:円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	3,223,542,229
手数料収入	75,633,100
寄付金収入	23,078,822
補助金収入	380,742,067
国庫補助金収入	379,557,000
府県補助金収入	185,067
学術研究振興資金収入	1,000,000
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	14,677,928
受取利息・配当金収入	16,205
雑収入	163,221,149
計	3,880,911,500

(支出の部)

(単位:円)

科 目	金 額
人件費支出	2,059,612,116
教育研究経費支出	866,719,138
管理経費支出	189,039,362
施設関係支出	459,274,966
設備関係支出	286,842,520
計	3,861,488,102

大阪体育大学 平成29年度 資金収支予算書

(収入の部)

(単位:円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	3,407,870,000
手数料収入	71,920,000
寄付金収入	15,000,000
補助金収入	276,200,000
国庫補助金収入	276,000,000
府県補助金収入	200,000
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	4,380,000
受取利息・配当金収入	10,000
雑収入	98,320,000
計	3,873,700,000

(支出の部)

(単位:円)

科 目	金 額
人件費支出	1,968,700,000
教育研究経費支出	930,470,000
管理経費支出	194,420,000
施設関係支出	110,280,000
設備関係支出	201,600,000
計	3,405,470,000

窓

◆22日は衆議院議員の
開票日。選挙権年齢が
18歳以上から19歳に
引き下げられて初
の国政選挙とな
った昨年7月の参
院選

では、総務省のまとめで18歳が51・
28%、大学1年生にあたる19歳は42・
30%と大きな差が出ました。進学や就職
で地元を離れた19歳が住民票を移さず、現
住所で投票できないことが一因と分析され
ました。住民票を移さないうちの一人です
。◆09年のデータといさか古いで
すが、大学生世代の人口は推定670万
人とされています。この山が動いたら
間違いなく国政は変わります。巨大な勢
力です。動かない方はありません。今
回のように大義なき総選挙の場合なら、
力のバランスで大きく揺れ動いたでしょ
う。60年安保の時は高校生、70年安保の
時は新聞記者3年生として長野支局勤務
でしたが、当時の学生にはパワーがあり
ました。◆翻って今を見ると、前述し
た通りです。「学生よ決起せよ」とアジッ
テいるのではありません。関心を持って
時の政府の監視役にだてられるのです。
公示と告示の違いってわかりますか?「馬
鹿にするな」という答えを待っています。
【相馬卓司】

我が青春の記

体育学部教授

宮地 弘太郎



社会に出る準備期

テニスの名門、福岡県柳川高校を卒業後、亜細亜大学へ進学した。当初は、関東テニスリーグ3部（私の入学の数年前より強化を始め7部スタート）だったが、全国のトップジュニア（インターハイ優勝、準優勝、全日本ジュニアU18優勝者）がごそつと入学し、あつという間に関東リーグ1部優勝、全国大学王座でも優勝し、デビスカップの候補選手、全日本テニス選手権で優勝するような選手が、クラブに在籍していた。

私も、2年目（大学2年）からは、ナショナルチームに在籍した。当時は、東京・久我山にナショナルトレーニングセンターが完備し、高校の先輩でもある松岡修造氏と練習する機会にも恵まれた。（当初は、ナショナルセンターでの練習がメインで、リーグ戦前は、クラブ活動で練習）当時の監督で、現在でも

総監督をされている堀内先生（法学部教授）は、「高校卒業後プロ転校する選手が大半である中」大学からプロになる準備をする役割があるのが大学テニスであり、大学生活で、教養やスポーツ科学の知識、クラブを通じての人間形成、大会スケジュールの管理（自己管理）など、遠回りでもあるが、世界のテニスのピーク年齢が現在は、28歳〜30歳でもあり、十分である」と言っておられた。

準備期―移行期―試合期と、トレーニングの期分けに例えるならば、まさに私の大学の授業、クラブ活動は社会に出るプロになる準備期でもあった。卒業後は豊田自動織機製作所、三基商事やグローバルイード株式会社でプロ活動をサポートしていただくことになり、約8年間国際、国内大会を転戦し、日本代表としてもプレーすることが出来、引退後



全日本選手権にて松岡さんにインタビューされる



高校の同期と全豪オープンテニスの会場メルボルン

は大学院に進学し現職に至っており、教員として指導者として大学テニス強化に従事している。

教育学部准教授

田部 絢子



拓かれた回り道

「道」は出会いや経験により、驚くような展開で拓けることがある。飛行機一人旅が多かった小学生の頃の私の夢はキャビンアテンダント。広い世界を飛び回りたいかった。中学時代には教師か人の健康を支える職業に、大手新聞社のジュニア記者として活動していた高校時代は、新聞記者になりたかった。

そして結局、管理栄養士か家庭科教諭を目指そうと専門の大学を選んだ。在学中はオーストラリアへの短期留学で世界に目を向ける面白さも知った。ところが卒業時には教員採用試験も国家試験も不合格、食品企業に就職した。仕事にやりがいを感じながらも「じつくり」と考えながら人を育て、ともに育つことを大切にしたいと考える自分に改めて気づき、退職。家庭科教員にもなる、管理栄養士国家試験にも合格すると目標を決め、どちら

も退職から4カ月以内に達成した。

回り道をしたが、家庭科教諭として私立中学・高校へ。ここで私の人生をさらに広げてくれる多様なニーズを有する生徒たちと出会うことになった。大学時代に学んだままでは現代の子どもたちの抱える課題に伴走しきれないことを痛感する日々。教師という専門職に就いている限り自分自身のアップデートは必須だと思い、教員を続けながら国立大学院修士・博士課程に進学し、5年間はまさに寝る暇もないほどに勉学・研究に励み、その理論・知識を日々の教育実践と融合した。その後、本学に赴任することとなった。

私が踏ん張り、挑戦し続けられるのは、「発達したい」と強く願う障がい児者や、その家族との出会い、小学校・中学校・高校・大学院時代の恩師たちとの出会いが大きい。



担任クラスは毎年、担任の所属研究室を訪問し大学生相手に研究発表会

ぜひ、学生たちには「いつもの自分」「これまでの自分」の枠にとらわれない挑戦や出会いを大切にして、日々のことで精一杯にならず幅広い世界に目を向けてほしいと願っている。



極める力。

人を学び、育て、支える。

大阪体育大学

【大学院】

- 博士 前期課程 後期課程

【体育学部】

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【健康福祉学部】

- 健康福祉学科

【教育学部】

- 教育学科

企画広報室

大学事務局

庶務部、教学部、入試部
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設

図書館、社会貢献センター
情報処理センター
スポーツ科学センター

支援組織

教養教育センター、キャリア支援センター
教職支援センター、学習支援室
学生相談室・カウンセリングルーム

<https://www.ouhs.jp>